

# 秋参り・恩講・報恩講

十月四日から始めた秋参り（家庭報恩講・以下「秋参り」とします）と十一月一日から始まった各地区の恩講（報恩講・以下「恩講」とします）、十二月四日を最後に今年も無事に終わることができました。秋参りが百二十六軒、各地区恩講が百五十軒、併せて二百七十六軒のご縁でした。様々の理由でお参りできないご家庭が三十軒あったことは残念です。また、遠方のご門徒さん宅にご縁を結べないこと、紙面をかりてお詫び申し上げます。

当山の報恩講（御正忌）は、今月十五、十六日にとめます。どうぞお参りください。親鸞上人がお亡くなりになられたのは新暦では一二六三年一月十六日です。旧暦では一二六二年十一月二十八日になります。

恩講を新暦でつとめたり、旧暦でつとめたりします。各派の一般寺院は本山の御正忌報恩講までに自坊の報恩講をつとめ、自坊の報恩講までにご門徒宅で家庭報恩講各地区で恩講をつとめます。金光寺のスケジュールは本山が新暦で御正忌報恩講をつとめるため十月上旬の秋参りに始まり各地区の恩講、そして、十二月自坊の報恩講で終わります。このご縁をいただきながら、どうして親鸞聖人はもっと暖かい時期にお亡くなりになられなかったのかと恥ずかしい思いをもってしまう自分がいいます。

最近、秋参りや恩講の時期になると小学生の頃を思い出すことがあります。

父は農協に勤めていたので、恩講は母がつとめていました。車の免許を持っていない頃は歩いて一軒一軒お参りをして

いたようです。バイクや車で移動しても結構時間がかかるのですが、それを歩いてつとめていたことを知った時は頭が下がる思いになりました。

もう一つ思い出すのは、母が恩講に行き、夕食の時間になっても帰らないことが時々ありました。小学生の姉と弟、私の三人はそんな時には家のすぐ前にあった藤本商店へパンを買いに行き夕食にしたのです。母は「遅くなる」と言うことはなく、お金がどこにあるかも知らなかったため「後で代金を払いに来ます」と言ってパンをいただいて帰っ



ていました。

私が秋参りや恩講のご縁をつとめるようになったある時、母が「歩いてお参りして途中で口ウソクの火を消した不安になり、一キロくらい歩いて戻り口ウソクの火を確認したこと、一回や二回じゃなかったな」と言いました。それを聞いてからは読経を終えたらすぐに必ずろうそくの火を消すように決めました。

父や母から秋参り・恩講のご縁を受け継ぎ、バイクや車でお参りできるようになり、お参りのご縁は随分楽になりましたが、それでもこの二力月は精神的にも体力的にも結構辛いものです。

しかし、親鸞聖人の御命日を縁として阿弥陀さまから賜る「念仏一つ・そのまま救う」という浄土真宗のみ教えを護り続け、私たちに届けてくれた先人の姿に学び、今、この身に到り届いている阿弥陀さまのお慈悲を当山報恩講で改めて喜びたいものです。

十六日のご満座円成を一緒にお迎えしましょう。

# 法語の世界

## 《原文》

御膳を御覧しても 人の食はぬ飯を食ふことよと思し召し候ふと仰せられ候ふ 物をすぐにきこしめすことなし。ただ御恩のたふときことをのみ思し召し候ふと仰せられ候ふ

（『蓮如上人御一代記聞書 二百六十七』）

## 《現代語訳》

蓮如上人はお食事のお膳をご覧になっても「普通はいただくことのできな、仏より賜ったご飯を口にすることありがたく思ふ」と仰せになりました。それで、食物をすぐに口にされることもなく、「ただ仏のご恩の尊いことばかりを思ふとも仰せになりました。」

## 二〇二一年（令和三）年

### 金光寺報恩講のお知らせ

日時  
十二月十五日 午前十時〜 日中法要（上下参り）  
（九区・十三区・十四区地区）  
午後六時〜 速夜法要（お番）  
十二月十六日 午前十時〜 日中法要  
（十区・十一区・十二区）

講師 福岡教区 志摩組 海徳寺住職  
浄土真宗本願寺派布教使 松月英淳 師

### その他

お参りの際は、門徒式章、念珠と聖典（お経本）をご持参ください。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、必ず、マスク着用の上、入堂の際は準備しているアルコール消毒液で手指を消毒してください。体調不良の方は参詣をご遠慮ください。

報恩講期間中の日中法要（午前十時からの法要）にお仕事等でお参りできない方は、十二月十五日午後六時からの速夜法要にお参りください。法要終了後のお齊については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためお配りします。ご自宅でお召し上がりください。

浄土真宗では**一番重要な法要・法座**に多くの方面のご参詣をお待ちしております。是非、ご勝縁をお結びください。